

終助詞“よ”と“ね”の発話が発話者の 印象に及ぼす効果

目白大学大学院心理学研究科 福島和郎
目白大学人間学部 岩崎庸男
目白大学社会学部 渋谷昌三

【要 約】

本研究は、“よ”と“ね”という終助詞表現の発話者が、聞き手にどのような発話者印象を与えるのかを検討するため、“終助詞なし”、“よ”、“ね”の文末表現に言い換え可能な6種類の発話を聞き手側の視点に立つ参加者に提示し、両極性形容詞対尺度を用いて、各文末表現を発話する人物の具体的な印象を調査した。その結果、“終助詞なし”の発話者は“わかりやすい”という印象を与え、“よ”の発話者は“感情的な”という印象を与え、“ね”の発話者は“やわらかい”、“暖かい”、“感じのよい”、“親しみやすい”という印象を与えることが示された。次に、発話場面と文末表現を合わせて因子分析を行い、発話者に関する評価次元を算出し、第1因子“受容性”、第2因子“率直性”、第3因子“自己主張”とそれぞれ命名した。最後に、各因子の印象項目得点を合計して分散分析を行い、終助詞間の評定平均の比較を行ったところ、“受容性”の印象には主に“ね”の機能が関係し、“率直性”の印象には主に“終助詞なし”の機能が関係し、“自己主張”の印象には主に“よ”の機能が関係することが示された。

キーワード：終助詞“よ”と“ね”，発話者印象

研究の背景と目的

社会心理学の分野では、Ash (1946) によって印象形成に関する研究が開始され、パーソナリティ認知には、人の外見・容貌等の視覚的手がかりや (Fiske & Cox, 1979)、話し方や声の情報等の聴覚的手がかりの関与することが指摘されてきた (廣兼・吉田, 1984; 大坪・吉田, 1990)。最近では、聴覚的手がかりのうち、話し手の声の高さ、発話速度、休止時間、抑揚の大きさ等、言語コミュニケーションと関係する諸側面が発話者の性格印象に及ぼす効果も指摘されている (内田・中畝, 2004; 内田, 2005a, b)。しかし、特定の言語表現の発話が発話者の印象に及ぼす効果に焦点をあてた研究は、あまり報告されていない。

一方、自閉症研究や発達研究の分野では、終助詞“よ”や“ね” (以降“よ”や“ね”) の発話行為が社会的相互作用と関係することが指摘され (佐竹・小林, 1987; 松岡・澤村・小林, 1997; 横山, 1992)、自閉症児の発話に“ね”が見られない事実や、幼児が“ね”を使ったときに母親が幼児と頻繁に会話を重ねる (speech overlap) 事実に基づき、特に、“ね”の発話行為が聞き手の共感獲得効果をもたらすことが指摘されている (綿巻, 1997; Kajikawa, Amano, & Kondo, 2004)。これらの研究知見を実証するため、“よ”や“ね”という言語表現や、その発話者に対する印象研究が求められる。

こうした動向をふまえ、福島 (2004a) は、終助詞を用いない表現が聞き手に内容をわかりや

すく伝える印象を与えるのに対し、“ね”を用いた表現は聞き手に快い印象を与えることを明らかにした。また、福島・岩崎・渋谷(2007)は、心理的に親しい人物の方が疎遠な人物よりも“よ”と“ね”を多く発話すると感じる参加者の印象傾向を明らかにした。これらのことから、“ね”を発話する人物は、聞き手に親密で快い発話者としての印象を与えることが予想されるが、実際に“よ”や“ね”の発話者が聞き手に及ぼす発話者印象を検討した研究は、あまり見あたらない。

以上のことから、本研究は、“よ”と“ね”という言語表現の発話者が聞き手にどのような発話者印象を与えるのかを検討するため、“終助詞なし”、“よ”、“ね”に言い換え可能な発話文を聞き手側の視点に立つ参加者に提示し、両極性形容詞対尺度を用いて、各文末表現を発話する人物の具体的な印象を調査する。また、特に“ね”の発話者の印象に関して、自閉症研究や発達研究の分野における指摘を支持する結果が得られるかどうかを検討する。

方法

研究方法の選定

質問紙調査法の採用 “終助詞なし”、“よ”、“ね”に言い換え可能な発話文を聞き手側の視点に立つ参加者に提示し、各文末表現の発話者の具体的な印象を調査する手続き面から、本研究は質問紙調査法を採用した。協力者が発話文を発音する方法や、質問紙に発話文のイントネーションを明示する等の方法は、文末表現の印象に協力者の印象が反映される可能性や、明示が参加者へのバイアスとなる可能性があることを考慮し、採用しなかった。本研究は質問紙調査法を用い、自然に想起するイントネーションで発話文を理解するよう、参加者に求めることにした。

発話文の設定 “終助詞なし”、“よ”、“ね”に言い換え可能な典型的発話文を選定するにあたり、参加者による発話場面に関する理解の相違の影響を避け、かつ、発話文の文脈説明を最小限に留めるため、福島(2004a, b)、福島ら(2007)は、宮崎(2002)による発話形式に適合する発話場面を選定し、この発話場面に忠実

な発話文を設定する方法を用いた。本研究も同じ方法を採用し、各発話形式(準命令：しなさい、依頼：して、勧誘：しよう、希望：したい、評価：しそうだ、認識¹⁾)に適合する発話場面を選定し²⁾、発話場面に忠実な以下の6つの発話文を設定した(調査時には、発話形式は明示せず、各文末表現はそれぞれ文の形に直して、参加者に提示した)。

準命令：(アルバイト先で作業が遅れがちなあなたに、店長が)

早くしなさい [ー／よ／ね]。

依頼：(授業に消しゴムを忘れた友人があなたに) 消しゴム貸して [ー／よ／ね]。

勧誘：(新しい学食ができたという話を聞きつけた友人があなたに)

昼休みに行ってみよう [ー／よ／ね]。

希望：(友人と食事に行こうかどうか迷っているあなたに、友人が)

どこかで食事がしたい [ー／よ／ね]。

評価：(一緒に大学に登校中の友人があなたに) いつもより早く着きそうだ [ー／よ／ね]。

認識：(雨が降ってきたことに気づいた友人があなたに)

雨が降ってきた [ー／よ／ね]。

印象項目の選定 言語の心理学的研究の手段としてOsgood, Suci, & Tennenbaum (1957)により開発されたSD法は、対人認知の印象研究に取り入れられ(林, 1976, 1981)、今日、対人認知の各側面を測定する手段として一般的に利用されている(井上・小林, 1985; 大坪・吉田, 1990)。本研究は、井上・小林(1985)による形容詞対からの10項目に、“よ”と“ね”に関するこれまでの研究(福島, 2004a, b; 福島ら, 2007)から終助詞表現の発話者の印象に関係があると判断し作成した8項目(心地よい—不快な、親密な—疎遠な、受容的な—拒否的な、わかりやすい—わかりにくい、主張的な—傾聴的な、支配的な—服従的な、自分本位な—相手本位な、主観的な—客観的な)を加え、計18項目の形容詞対を選定し、さらに印象項目を整理するため、予備調査を実施した。

予備調査 これまでの研究（福島, 2004a, b; 福島ら, 2007）から、話し手の考えや気持ちの聞き手への表明度が高いと判断される発話場面を3種類選定し（準命令, 希望, 評価）、3種類の発話場面の“終助詞なし”, “よ”, “ね”の各文末表現の発話者の印象について、18項目5段階の形容詞対を用いて参加者の評定を求めた³。平成16年12月、国立大学教育学部で教育相談の授業を履修している3年生中心の大学生49人（男性22人, 女性27人）に調査を実施した。得られた441の評定データ（3発話場面×3文末表現×49人）について因子分析を行い（主因子法, バリマックス回転）、3因子を抽出し（説明率54.76パーセント）、各因子から因子負荷量の高い項目を中心に、計10項目を本研究の印象項目として選定した（Table 1）。

実施

平成17年7月、質問紙調査を実施した。6つの発話場面の“終助詞なし”, “よ”, “ね”の各

文末表現を発話する人物の印象について、10項目5段階の形容詞対を用いて参加者の評定を求めた。発話文の提示については、順序を逆に記述した質問紙を同数配布し、カウンター・バランスをとった。回答時、項目ごとに3種類の文末表現の違いに留意して回答するよう指示を行った。所要時間は約15分であった。

参加者

私立4年制大学で心理学系の基礎教育科目を履修している1年生を中心とする大学生136名（男性41名, 女性95名）に、質問紙調査を実施した。

結果

終助詞表現の発話者の印象

各発話場面の印象項目ごとに、終助詞間の評定平均を比較するため、反復のある一要因分散分析を行い、有意差の見られたものについて、LSD法による多重比較を行った（Table 2-1～

Table 1 発話者に関する評価次元

項目	因子負荷量			
	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
暖かい-冷たい	.82	-.23	-.05	.73
感じのよい-感じの悪い	.81	-.09	-.26	.74
やわらかい-かたい	.81	-.33	-.02	.77
親しみやすい-親しみにくい	.80	-.06	-.24	.70
優しい-厳しい	.79	-.33	-.02	.74
心地よい-不快な	.73	-.03	-.13	.56
社交的な-非社交的な	.64	-.07	-.19	.46
親密な-疎遠な	.59	.01	-.13	.37
受容的な-拒否的な	.54	-.27	-.23	.42
素直な-強情な	.48	.05	-.21	.28
わかりやすい-わかりにくい	.02	.71	-.04	.51
積極的な-消極的な	-.19	.71	.21	.59
主張的な-傾聴的な	-.31	.67	.27	.63
意欲的な-無気力な	.02	.63	.10	.42
支配的な-服従的な	-.48	.53	.19	.56
自分本位な-相手本位な	-.21	.37	.55	.49
主観的な-客観的な	-.11	.45	.53	.49
感情的な-理性的な	-.24	.04	.50	.31
固有値	5.64	2.89	1.32	
寄与率 (%)	31.33	16.05	7.37	
累積寄与率 (%)	31.33	47.38	54.76	
α 係数	.85	.81	.65	

主因子法（バリマックス回転）
太字の項目を印象項目に選定した。

Table 2-6)。この結果，「評価」場面の“意欲的な－無気力な”を除く，全発話場面の全ての印象項目に有意差が見られた ($P < .01$)。

Table 2-1 終助詞別印象評定「早くしなさい。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	4.41 (.89)	4.04 (1.05)	3.02 (1.01)	79.06** なし>よ>ね
意欲的な－無気力な	4.25 (.99)	3.93 (1.07)	3.04 (.97)	61.24** なし>よ>ね
主観的な－客観的な	3.93 (1.32)	3.72 (1.26)	2.68 (1.08)	46.00** なし,よ>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.46 (.89)	3.92 (1.06)	3.38 (1.08)	53.96** なし>よ>ね
感情的な－理性的な	3.77 (1.38)	4.23 (1.10)	2.73 (1.12)	54.03** よ>なし>ね
自分本位な－相手本位な	3.77 (1.12)	4.29 (.96)	2.21 (.94)	151.25** よ>なし>ね
感じのよい－感じの悪い	2.08 (.95)	2.01 (1.18)	3.95 (.93)	192.55** ね>なし,よ
やわらかい－かたい	1.74 (.83)	2.16 (1.11)	4.27 (.83)	339.49** ね>よ>なし
暖かい－冷たい	1.82 (.91)	2.01 (1.06)	4.13 (.84)	279.67** ね>なし,よ
親しみやすい－親しみにくい	1.96 (.95)	2.19 (1.15)	4.07 (.90)	204.21** ね>よ>なし

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

Table 2-2 終助詞別印象評定「消しゴム貸して。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	4.20 (.90)	4.15 (1.04)	3.20 (1.13)	39.10** なし,よ>ね
意欲的な－無気力な	4.15 (.97)	4.11 (1.03)	3.43 (.99)	24.53** なし,よ>ね
主観的な－客観的な	4.19 (.97)	4.29 (.93)	3.18 (1.08)	55.82** なし,よ>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.47 (.78)	4.07 (.92)	3.47 (1.18)	48.94** なし>よ>ね
感情的な－理性的な	3.32 (1.20)	4.35 (.93)	3.04 (1.16)	51.08** よ>なし,ね
自分本位な－相手本位な	3.96 (.94)	4.55 (.79)	2.62 (1.16)	129.62** よ>なし>ね
感じのよい－感じの悪い	2.83 (1.00)	2.01 (1.01)	3.84 (1.01)	54.31** ね>なし>よ
やわらかい－かたい	2.44 (.93)	2.46 (.99)	4.19 (.90)	150.30** ね>なし,よ
暖かい－冷たい	2.49 (.88)	2.15 (.86)	4.05 (.80)	187.26** ね>なし,よ
親しみやすい－親しみにくい	2.73 (1.05)	2.15 (.99)	3.91 (.99)	99.77** ね>なし>よ

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

Table 2-3 終助詞別印象評定「昼休みに行ってみよう。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	4.49 (.80)	4.18 (.91)	2.84 (1.04)	120.24** なし>よ>ね
意欲的な－無気力な	4.53 (.69)	4.26 (.77)	3.05 (.97)	134.88** なし>よ>ね
主観的な－客観的な	4.23 (.90)	3.74 (1.07)	2.59 (1.07)	100.43** なし>よ>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.38 (.78)	4.12 (.87)	3.15 (.98)	90.70** なし>よ>ね
感情的な－理性的な	3.38 (1.08)	4.03 (1.02)	2.97 (1.01)	35.20** よ>なし>ね
自分本位な－相手本位な	3.99 (.87)	3.76 (1.08)	2.31 (1.04)	101.24** なし, よ>ね
感じのよい－感じの悪い	3.37 (.92)	3.82 (.84)	3.90 (.88)	15.61** よ, ね>なし
やわらかい－かたい	2.91 (.96)	3.74 (.81)	4.28 (.72)	98.71** ね>よ>なし
暖かい－冷たい	3.01 (.84)	3.71 (.71)	4.24 (.79)	86.80** ね>よ>なし
親しみやすい－親しみにくい	3.32 (.94)	3.84 (.80)	4.01 (.98)	22.31** よ, ね>なし

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

Table 2-4 終助詞別印象評定「どこかで食事がしたい。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	4.10 (1.06)	3.87 (.98)	3.15 (1.13)	28.18** なし, よ>ね
意欲的な－無気力な	4.11 (1.08)	3.98 (.98)	3.27 (1.00)	25.82** なし, よ>ね
主観的な－客観的な	4.33 (.92)	4.04 (1.03)	2.60 (1.11)	103.31** なし>よ>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.25 (.99)	3.81 (1.09)	3.24 (1.11)	32.90** なし>よ>ね
感情的な－理性的な	3.33 (1.26)	4.19 (.94)	2.99 (1.07)	35.69** よ>なし>ね
自分本位な－相手本位な	4.20 (.84)	4.42 (.83)	2.16 (.99)	239.56** よ>なし>ね
感じのよい－感じの悪い	2.63 (.88)	2.89 (1.00)	4.14 (.80)	114.13** ね>よ>なし
やわらかい－かたい	2.26 (.87)	3.18 (.89)	4.34 (.73)	214.21** ね>よ>なし
暖かい－冷たい	2.33 (.78)	3.10 (.93)	4.31 (.68)	211.47** ね>よ>なし
親しみやすい－親しみにくい	2.54 (.91)	3.23 (.98)	4.32 (.72)	143.03** ね>よ>なし

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

Table 2-5 終助詞別印象評定「いつもより早く着きそうだ。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	3.68 (.98)	3.77 (.85)	2.95 (1.11)	26.27** なし, よ>ね
主観的な－客観的な	3.68 (1.22)	3.37 (1.08)	2.40 (1.11)	42.02** なし>よ>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.12 (.98)	4.01 (.89)	3.40 (1.12)	28.01** なし, よ>ね
感情的な－理性的な	2.62 (1.25)	3.71 (1.00)	3.18 (1.06)	28.08** よ>ね>なし
自分本位な－相手本位な	3.78 (.88)	3.44 (1.10)	2.01 (.97)	107.88** なし>よ>ね
感じのよい－感じの悪い	2.69 (.88)	3.73 (.83)	4.23 (.81)	122.03** ね>よ>なし
やわらかい－かたい	2.09 (.89)	3.82 (.82)	4.47 (.65)	315.64** ね>よ>なし
暖かい－冷たい	2.26 (.86)	3.77 (.87)	4.46 (.68)	249.86** ね>よ>なし
親しみやすい－親しみにくい	2.37 (.88)	3.87 (.78)	4.41 (.75)	230.56** ね>よ>なし

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

Table 2-6 終助詞別印象評定「雨が降ってきた。」

	なし (N=136)	よ (N=136)	ね (N=136)	F 値
積極的な－消極的な	3.23 (1.04)	3.79 (.86)	3.13 (1.07)	16.46** よ>なし, ね
意欲的な－無気力な	2.97 (1.15)	3.66 (.88)	3.11 (1.07)	15.37** よ>なし, ね
主観的な－客観的な	3.15 (1.36)	3.18 (1.14)	2.71 (1.16)	6.10** よ, なし>ね
わかりやすい－わかりにくい	4.29 (.93)	4.11 (.76)	3.70 (.96)	23.17** なし>よ>ね
感情的な－理性的な	2.49 (1.16)	3.69 (.98)	3.32 (1.11)	41.85** よ>ね>なし
自分本位な－相手本位な	3.40 (.88)	3.42 (1.15)	2.21 (1.01)	58.91** なし, よ>ね
感じのよい－感じの悪い	2.79 (.76)	3.68 (.79)	4.22 (.75)	129.41** ね>よ>なし
やわらかい－かたい	2.18 (.85)	3.71 (.80)	4.38 (.65)	308.42** ね>よ>なし
暖かい－冷たい	2.36 (.88)	3.74 (.75)	4.31 (.71)	224.61** ね>よ>なし
親しみやすい－親しみにくい	2.69 (.82)	3.78 (.74)	4.40 (.71)	182.94** ね>よ>なし

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

印象項目別に結果を整理すると、“わかりやすい”の項目では、[評価]場面を除く5場面で“終助詞なし”が最も高く評定され、“感情的な”の項目では、6場面全てで“よ”が最も高く評定され、“やわらかい”、“暖かい”の項目では、6場面全てで“ね”が最も高く評定され、また、“感じのよい”、“親しみやすい”の項目でも、ともに[勧誘]場面を除く5場面で“ね”が最も高く評定された。

以上のことから、“終助詞なし”の発話者は“わかりやすい”という印象を与え、“よ”の発話者は“感情的な”という印象を与え、“ね”の発話者は“やわらかい”、“暖かい”、“感じのよい”、“親しみやすい”という印象を与えることが示された。

発話者に関する評価次元

発話者に関する評価次元を算出するため、得られた2448の評定データ（6発話場面×3文末表現×136人）について因子分析（主因子法、バリマックス回転）を行い、3因子を抽出し（説明率61.36パーセント）、それぞれ、第1因子“受容性”、第2因子“率直性”、第3因子“自己主張”と命名した（Table 3）。この3因子の集約傾向は、予備調査の結果とほぼ一致する

ものである。

発話者に関する評価次元に及ぼす終助詞表現の効果

抽出された各因子の印象項目得点を合計し、得られた816の評定データ（6発話場面×136人）で、終助詞間の評定平均の比較をするため、反復のある一要因分散分析を行い、有意差の見られたものについて、LSD法による多重比較を行った（Table 4）。この結果、いずれの因子においても終助詞間に有意差が見られた（受容性 $F(2, 1630) = 898.13, P < .01$ ；率直性 $F(2, 1630) = 280.73, P < .01$ ；自己主張 $F(2, 1630) = 502.73, P < .01$ ）。多重比較の結果、第1因子“受容性”の印象には主に“ね”の機能が関係し、第2因子“率直性”の印象には主に“終助詞なし”の機能が関係し、第3因子“自己主張”の印象には主に“よ”の機能が関係することが明らかになった。

考察

本研究は、“よ”と“ね”という言語表現の発話が発話者の印象に及ぼす効果について検討した。この結果、まず、発話者に関する評価次元には、“受容性”、“率直性”、“自己主張”の3次

Table 3 発話者に関する評価次元

項目	因子負荷量			
	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子：受容性				
暖かい－冷たい	.91	-.14	-.11	.86
親しみやすい－親しみにくい	.87	-.06	-.12	.78
やわらかい－かたい	.86	-.17	-.08	.79
感じのよい－感じの悪い	.82	-.00	-.18	.70
第2因子：率直性				
積極的な－消極的な	-.11	.74	.28	.64
意欲的な－無気力な	-.01	.71	.20	.54
わかりやすい－わかりにくい	-.10	.52	.12	.31
第3因子：自己主張				
自分本位な－相手本位な	-.43	.20	.67	.68
主観的な－客観的な	-.24	.39	.52	.49
感情的な－理性的な	.00	.24	.50	.31
固有値	3.29	1.65	1.19	
寄与率（%）	32.93	16.53	11.90	
累積寄与率（%）	32.93	49.46	61.36	
α 係数	.93	.73	.69	
主因子法（バリマックス回転）				

Table 4 終助詞別発話者評価次元

	なし (N=816)	よ (N=816)	ね (N=816)	F値
受容性	9.98 (3.36)	12.45 (4.23)	16.80 (2.72)	898.12** ね>よ>なし
率直性	12.27 (2.45)	11.91 (2.38)	9.64 (2.77)	280.73** なし>よ>ね
自己主張	10.92 (2.61)	11.73 (2.56)	7.98 (2.42)	502.73** よ>なし>ね

平均値 (SD)
(** $p < .01$)

元が存在し、“受容性”の印象には主に“ね”の機能が関係し、“率直性”の印象には主に“終助詞なし”の機能が関係し、“自己主張”の印象には主に“よ”の機能が関係することが明らかになった。

本研究から明らかになった発話者に関する評価次元には、林（1978）による対人認知に関する基本的評価次元との部分的類似が認められる。林（1978）は対人認知に関する基本的評価次元として、“個人的親しみやすさ”、“社会的望ましさ”、“活動性”の3次元を算出しているが、本研究の第1因子“受容性”は、“親しみやすい—親しみにくい”、“感じのよい—感じの悪い”の項目に高い付加量をもつ点で、林（1978）の第1因子“個人的親しみやすさ”と類似した性質を示し、本研究の第2因子“率直性”も、“積極的な—消極的な”、“意欲的な—無気力な”の項目に高い付加量をもつ点で、林（1978）による第3因子“活動性”と類似した性質を示している。一方、林（1978）の第2因子“社会的望ましさ”は、“知的な—知的でない”、“分別のある—無分別な”の項目に高い付加量をもつ、社会的・知的評価に関わる性質を示す次元であるのに対し、本研究の第3因子“自己主張”は、“主観的—客観的”、“感情的—理性的”の項目に高い付加量をもつ、発話者の認知・感情の表出に関わる性質を示す次元である。

次に、本研究は、“ね”の発話者の印象に関して、自閉症研究や発達研究の分野における指摘を支持する結果が得られるかどうかを検討した。この結果、“受容性”の次元と関係する“ね”の発話者は、聞き手に対し、“やわらかい”、“暖かい”、“感じのよい”、“親しみやすい”という

具体的な印象を与えることが明らかになり、“ね”を用いた表現が共感獲得表現に発展することを示した綿巻（1997）、Kajikawa et al.（2004）らの指摘を支持する結果が得られた。同じ内容を伝える際に、“ね”を用いて、聞き手に受容的な、親しみやすく感じのよい発話者印象を与えることで、発話者は聞き手の共感を獲得することができるのであろう。

本研究は、終助詞表現の発話から聞き手が感じとる発話者としての印象を検討した。聞き手に対し、受容的、率直、主張的であるという印象を与える各文末表現の発話者に対し、聞き手がさらにどのような性格印象を感じとるのかは、今後の検討課題である。

また、本研究は“終助詞なし”、“よ”、“ね”の各文末表現に言い換え可能な発話を聞き手側の視点に立つ参加者に提示し、各文末表現の発話者の具体的な印象を調査したが、参加者は各文末表現に対して周囲の特定の人物の発話を想像し、こうした人物の印象が結果にも反映された可能性がある。このため、参加者が受容的であると感じた人物の発話と同じ表現を別の人物が発話した場合に、参加者がこの発話者を受容的であると認めるかどうかは、本研究の結果のみからは明らかにならない。今後は、参加者が自発した発話の分析を研究課題に含め、研究を進展させたい。

【脚注】

¹ [認識]形式について、宮崎（2002）は“命題内容に対する認識的な捉え方を示しながらの叙述である”と説明し、文末表現を特定しない現象描写文

を例文に挙げている。

² 福島 (2004a), 福島ら (2007) では, [準命令: しなさい] 形式の代わりに [命令: しろ] 形式を用い, “終助詞なし”と“よ”“ね”だけで比較を行ったが, この形式では, “ね”による言い換えができないため, 本研究では, この形式と意味的に近く, “終助詞なし”, “よ”, “ね”で言い換え可能な“しなさい”という文末形態を [準命令] 形式として用いた。また, 福島 (2004a), 福島ら (2007) では, [評価] 形式として“したほうがいい”という文末形態を採用したが, 本研究では, この文末形態自体に, 一部の印象項目 (冷たい, 固い, 親しみにくい) に通じるニュアンスを感じとれると判断したため, 宮崎 (2002) による同じ [評価] 形式の中から“しそうだ”という文末形態を [評価] 形式として採用した。³ 各形容詞対の左側の形容詞に近い方を 5, 中間を 3, 右側の形容詞に近い方を 1 とし, 各文末表現の発話者の印象が 5 から 1 のいずれに該当するか, 参加者の評定を求めた。例えば, “暖かい—冷たい”では, “暖かい”に近い方を 5, “冷たい”に近い方を 1 とした。

【引用文献】

- Ash, S. E. (1946). Forming impression formation of personality. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 41, 258-290.
- Fiske, S. T., & Cox, M. G. (1979). Person concept: The effects of target familiarity and descriptive purpose on the process of describing others. *Journal of Personality*, 47, 136-161.
- 福島和郎 (2004a). 終助詞“ね”の印象に関する研究 日本カウンセリング学会第 37 回大会発表論文集, 236-237.
- 福島和郎 (2004b). “よ”・“ね”の使用におけるパーソナリティ要因の検討 日本パーソナリティ心理学会第 13 回大会発表論文集, 58-59.
- 福島和郎・岩崎庸男・渋谷昌三 (2007). 終助詞“よ”と“ね”の発話から聞き手が推測する話し手との人間関係 目白大学心理学研究, 3, 109-119.
- 林文俊 (1976). 対人認知構造における個人差の測定 (I) —認知的複合性の測度についての予備的検討— 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 23, 27-38.
- 林文俊 (1978). 対人認知構造の基本次元についての一考察 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 25, 233-247.
- 林文俊 (1981). 対人認知構造における個人差の測定 (V) —認知者の性および年齢差についての検討— 心理学研究, 52, 244-247.
- 廣兼孝信・吉田寿夫 (1984). 印象形成における手がかりの優位性に関する研究 実験社会心理学研究, 23, 117-124.
- 井上正明・小林利宣 (1985). 日本における SD 法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観 教育心理学研究, 33, 253-260.
- Kajikawa, S., Amano, S., & Kondo, T. (2004). Speech overlap in Japanese mother-child conversations. *Journal of Child Language*, 31, 215-230.
- 松岡勝彦・澤村まみ・小林重雄 (1997). 自閉症児における終助詞付き報告言語行動の獲得と家庭場面における追跡調査 行動療法研究, 23, 95-105.
- 宮崎和人 (2002). モダリティの概念 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 モダリティ 新日本語文法選書 4 pp.1-15.
- Osgood, C. E. Suci, G. J., & Tennenbaum, P. H. (1957). *The measurement of meaning*. Urbana, IL: University of Illinois Press.
- 大坪靖直・吉田寿夫 (1990). 印象形成における手がかりの優位性に関する研究 実験社会心理学研究, 30, 25-33.
- 佐竹真次・小林重雄 (1987). 自閉症児における語用論的伝達機能の研究—終助詞文表現の訓練について— 特殊教育学研究, 25, 19-30.
- 内田照久 (2005a). 音声の発話速度と休止時間が話者の性格印象と自然なわかりやすさに与える影響 教育心理学研究, 53, 1-13.
- 内田照久 (2005b). 音声の抑揚の大きさと変化パターンが話者の性格印象に与える影響 心理学研究, 76, 382-390.
- 内田照久・中畝菜穂子 (2004). 声の高さと発話速度が話者の性格印象に与える影響 心理学研究, 75, 397-406.
- 綿巻徹 (1997). 自閉症児における共感獲得表現助詞“ね”の使用の欠如: 事例研究 発達障害研究, 19, 146-157.
- 横山正幸 (1992). 幼児による終助詞ネの獲得—R 児の場合— 福岡教育大学紀要, 41, 351-357.

謝辞

本論文の作成にあたり, 分析方法に関して目白大学人間学部今野裕之先生からご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

Effects of the sentence final particles “yo” and “ne” on listeners’ impression of the speaker

Kazuro Fukushima Mejiro University, Graduate School of Psychology
Tsuneo Iwasaki Mejiro University, Faculty of Human Sciences
Shouzo Shibuya Mejiro University, Faculty of Studies on Contemporary Society

Mejiro Journal of Psychology, 2008 vol.4

【Abstract】

This study examined the impression of the speaker using the sentence final particles “yo” and “ne” to the listener. We presented 136 participants with the six typical sentences accompanied by “yo”, “ne” or no particle, and asked them to rate impression of the speaker using each particle on bipolar adjective scales. The following results were obtained. First, the impression of the speaker using no particle was “understandable”, that of using “yo” was “emotional”, that of using “ne” was “soft”, “warm”, “comfortable”, and “intimate”. Secondly, the results of factor analysis on listener’s impression of the speaker showed that there were three dimensions of impression of the speaker ; “acceptance” as the first factor, “directness” as the second, and “assertion” as the third. Thirdly, “acceptance” was related with the function of “ne”, “directness” with that of no particle, and “assertion” with that of “yo”.

Keywords : sentence final particles “yo” and “ne”, impression of speaker.